

中国四国地域農業をめぐる事情

取組事例集

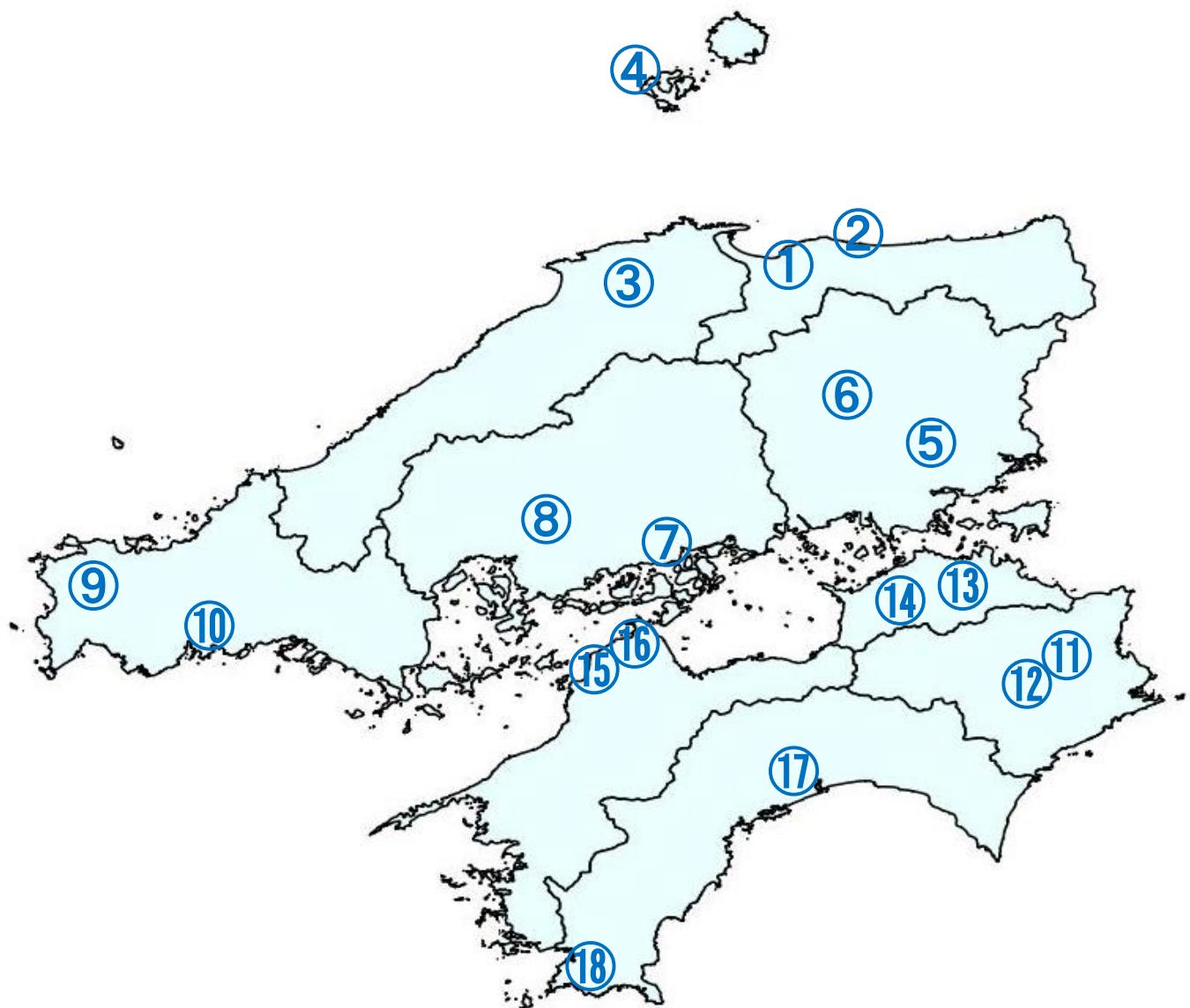
令和7年12月

農林水産省
中国四国農政局

掲載事例一覧

①	NPO法人ライヴ 地元漁師との水福連携で障がい者の自立を目指す	農福連携
②	出上農地・水保全活動組織 次世代につなげ、明るい地域を目指して	地域活性化 その他
③	農事組合法人ふくどみ 自作の深層施肥機による大豆の多収・高品質化	生産性向上 土地利用型作物
④	中上光 隠岐の豊かな海で育む『隠岐のいわがき』	その他
⑤	株式会社穂々笑ファーム 酒米産地を盛り上げる女性農業経営者	担い手 生産性向上 土地利用型作物 輸出・認証
⑥	NPO法人吉縁起村協議会 住民の生活支援に向けた、デジタル技術の導入	園芸 6次産業化 地域活性化 その他
⑦	株式会社八天堂ファーム 農福連携を応援する地域商社	園芸 6次産業化 農福連携
⑧	有限会社トムミルクファーム 耕畜連携と6次産業化による地域と連携した酪農	生産基盤強化 生産性向上 土地利用型作物 畜産 6次産業化
⑨	下関市豊北町大字田耕「朝生地区」 地域一体で取り組む鳥獣被害対策	鳥獣害対策・ジビエ
⑩	農事組合法人新西 干拓の歴史が築いた緑の大地を次世代に継ぐ	担い手 土地利用型作物 地域活性化
⑪	株式会社 菜々屋 「人の和」で農業の課題を解決する	加工・流通 農福連携
⑫	NPO法人まちの食農教育 神山育ちの食育で、未来へつなぐ食農プログラム	担い手 地域活性化 その他
⑬	石丸製麺株式会社 国産小麦「さぬきの夢」原料の讃岐うどんを世界へ	輸出・認証
⑭	香川県立農業大学校 地域で循環する農業を目指して	みどり
⑮	きりぬき 価値を再定義！規格外柑橘の加工・販売の取組	生産基盤強化 加工・流通 6次産業化 その他
⑯	有限会社こんばら 地域を支え、農地を次世代につなげ「三方よし！」	農地集積 担い手 生産性向上 6次産業化 地域活性化 みどり
⑰	高知商業高等学校ジビ工商品開発・販売促進部 森林保護から始まった地域貢献活動	鳥獣害対策・ジビエ 地域活性化 みどり
⑱	株式会社 ヤマニファーム スマート畜産で実現する高品質鶏と循環型農業	担い手 畜産 加工・流通

■ 位置図



- ①NPO法人ライヴ
- ②出上農地・水保全活動組織
- ③農事組合法人ふくどみ
- ④中上光
- ⑤株式会社穂々笑ファーム
- ⑥NPO法人吉縁起村協議会
- ⑦株式会社八天堂ファーム
- ⑧有限会社トムミルクファーム
- ⑨下関市豊北町大字田耕「朝生地区」

- ⑩農事組合法人新西
- ⑪株式会社 菜々屋
- ⑫NPO法人まちの食農教育
- ⑬石丸製麺株式会社
- ⑭香川県立農業大学校
- ⑮きりぬき
- ⑯有限会社こんぱら
- ⑰高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部
- ⑲株式会社 ヤマニファーム

※ この地図は、必ずしも我が国の領土を包括的に示すものではありません。

地元漁師との水福連携で障がい者の自立を目指す

NPO法人ライヴ（米子市）

理事長 大田 百子

○障がい者による海藻類を始めとした水産加工品の製造、販売

○新商品の開発・販売による地域水産業の維持

URL:<https://live-y.jp/>

カテゴリー

農福連携



○ 取組内容

山陰地方の名産である「板わかめ」を中心に、水産加工品の製造から販売まで手掛けることで、障がい者の自主性を育成している。

また、地域の食材を用いて漁業者から加工品の製造方法を教えてもらうことで、地域の食文化の承継にも寄与している。

○ 取り組みに至った経緯

法人の立ち上げ直後、他が作っていない日持ちする製品を考えていたところ、地元漁師から「しぶりわかめ」の手伝いを依頼された。作業に携わった障がいの方から「磯の香りに癒される」との発言もあり、自分たちで山陰名産の板わかめを売ろうと考えた。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

完成した板わかめは、地元漁師が作るものと比べると味が違っていた。原因を調べると、わかめを洗う工程でその漁師は井戸水で洗浄していることがわかった。当法人の事業所（リビングなどえ）には井戸がなかったため、近くにある湧水を汲み洗い水にすることで味が改善した。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

最初は県内に卸せなかつたので県外に出荷していたが、バーや試食会等でお客様からの評判が口コミで広がり、今では県内向けの出荷数が多くなった。

また、製造から販売まで手掛けることで、障がい者の責任感や自主性が育まれた。

(受賞歴)

ノウフクアワード2024 チャレンジ賞

○ 今後の展望（将来に向けて）

引き続き添加物を一切使用せず、素材の風味を大切にした商品づくりを大切にしたい。

新設した水産加工施設で、他の福祉事業所の利用者に水産加工作業の一部を委託することで連携する事業所数を増やし、水福連携の輪を拡大したい。



板わかめの製造風景

理事長からのコメント

これからも利用者さんと共に安心安全な海産物を作っていくます。



大田 百子氏

次世代につなげ、明るい地域を目指して

いでがみ

出上農地・水保全活動組織（東伯郡琴浦町）

代表 浅田 義彰

- 地域食堂に食材を提供し、食育活動を通じて孤立や孤食を防ぐ
- 田んぼダムや農業体験の伝承により農村コミュニティの強化



たんぼダム（せき板・のぼり設置）



軽トラ水族館（生き物観察）

○ 取組内容

・食育活動

当地区で毎月開催される「地域食堂」に野菜や米などを提供している。「地域食堂」には、子どもから高齢者まで多くの地域住民が参加しており、食育活動を通じて、孤立や孤食を防ぎ、多世代が集う「みんなの居場所」作りに貢献している。

・田んぼダムの取組

流域治水対策として、地区内の水田の排水口に自作の排水調整板（せき板）を設置し、雨水貯留機能の強化（田んぼダム）に取り組んでいる。



農村文化の伝承（田植え）

○ 取り組みに至った経緯

- ・地区内を流れる勝田川は過去に幾度となく氾濫しており、令和3年度から田んぼダムの取組を開始した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

- ・排水調整板（せき板）は、役員が板材を使って手作りし、希望農家に配布した。排水調整板の設置がなかなか浸透しないが、地道に啓発活動を行い、取組面積を拡大してきた。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

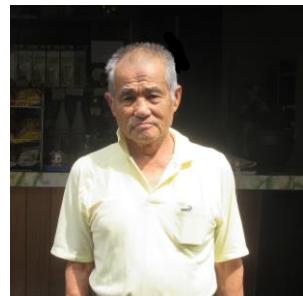
- ・令和4年度多面的機能発揮促進事業
中国四国農政局長表彰最優秀賞
- ・第11回「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(R6)

○ 今後の展望（将来に向けて）

日本は少子高齢化・人口減少が進んでおり、琴浦町でも農村コミュニティの維持が難しい時代になっていくが、次世代につながる明るい地域を創っていきたい。

代表者からのコメント

今後も活動を継続し、地域を維持していくよう、次代を担う若い人たちに引き継いでいきたい。



浅田 義彰氏

自作の深層施肥機による大豆の多収・高品質化

農事組合法人ふくどみ（出雲市）

代表理事（組合長） 尾原 貞二

○スマート農業による次世代農業者の育成に取り組む。

○大豆の多収・品質向上を図る自作の機器を既存トラクタに搭載。



○ 取組内容

- ・スマート農機を導入し、後付け自動操舵やドローン等による作業の省力化・効率化を図っている。
- ・大豆の弾丸暗渠と深層施肥を同時に実行する自作の機器を開発し、既存のトラクタに装備した。
- ・新たな大豆多収品種の育成、導入に向けて令和6年農研機構育成の極多収品種「そらみずき」、「そらみのり」、「そらたかく」（以下、「そらシリーズ」という。）を実証栽培している。

○ 取り組みに至った経緯

- ・スマート農業は、これまでのイメージを一新し、「儲かるカッコいい農業」これを若者に見せることで農業に興味・関心をもってもらいたいとの思いから導入した。（将来の担い手発掘のための種まき）
- ・米、麦、大豆の二年三作に取り組む中で、特に国産大豆の収量・品質向上を図るために、石灰窒素の深層施肥技術を導入した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

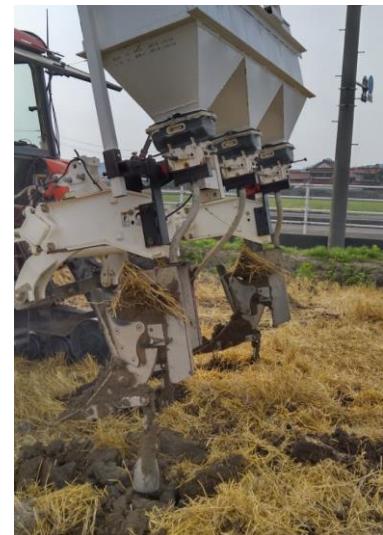
- ・既存の深層施肥機は作業効率が悪いため、「無いものは作る」との発想から研究データ等を参考に深層施肥機を自作。費用をかけずにアップデートを行いながら現在も運用している。
- ・「そらシリーズ」の実証栽培の結果は、島根県奨励品種（タマホマレ、サチュタカA1号）に比べて小粒だった。また、既存品種より収量は多かったが予想を下回った。（単収280kg）

○ 取組の成果（受賞・表彰等）

第50回全国豆類経営改善共励会（大豆集団の部）農林水産大臣賞（R3）（島根県の平均単収の2.2倍に相当する単収228kg、上位等級比率90.8%を達成）

○ 今後の展望（将来に向けて）

- ・儲かる農業を実現することにより次世代農業者の確保を図り、地域の農業に寄与したい。
- ・「そらシリーズ」は、栽培方法の工夫や新しい技術の検証・導入を図り、平均単収300kgを当面の目標とし、更なる収量アップを目指す。



自作した深層施肥機

副代表からのコメント

儲かる農業を実現するため、考える農業者を目指そう！



高橋 智和氏

隠岐の豊かな海で育む『隠岐のいわがき』

中上 光（隠岐郡西ノ島町）

○全国で初めてイワガキの完全養殖に成功

○隠岐地域で31経営体、水揚2億円まで成長、雇用創出に大きく寄与

URL:隠岐のいわがきブランド推進協議会

<https://www.oki-iwagaki.com/>



○ 取組内容

中上氏は、平成4年に全国で初めてイワガキの完全養殖に成功した。これをきっかけに、イワガキ養殖は隠岐4島（西ノ島、中ノ島、知夫里島、島後島）に広がり、隠岐地域では現在（令和5年度時点）31経営体がイワガキ養殖業を営んでおり、令和5年の水揚金額は全体で1.8億円となった。イワガキ養殖業の普及により、所得向上のみならず、地域の雇用創出にも大きく寄与している。

○ 取り組みに至った経緯

中上氏は、昭和53年にイタヤ貝の養殖を始めたが、収入時期が限定的であるため、地元の海に生息していた大きな天然のイワガキに着目し、人工的に種苗生産ができるか試みた。

当初はうまくいかなかったが、島根県水産技術センターの協力もあり、平成4年に全国で初めてイワガキの完全養殖に成功した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

イワガキの完全養殖に取組んだ当初は、種苗生産時の浮遊幼生や採苗器に付着した初期の稚貝の生残率が低く、これを如何に高めるかが課題であった。試行錯誤の結果、飼育水の管理方法に問題があるとわかり、それを改善することで生残率は向上し、種苗生産が安定した結果、養殖規模を拡大することができた。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・第4回全国青年・女性漁業者交流大会 水産庁長官賞(H10)
- ・山陰中央新報社地域開発賞(H12)
- ・西ノ島町制60周年記念功労者表彰(H29)
- ・島根県各種功労者表彰(R3)
- ・第11回「ディスカバー農山漁村の宝」優秀賞(R6)

○ 今後の展望（将来に向けて）

近年イワガキ養殖業者の高齢化が進んでおり、後継者の育成が急務となっている。そこで、島根県と担い手協定（※）を締結することにより、新たにイワガキ養殖を始めたいU I ターン者の受け入れ体制を強化し、後継者の育成に尽力していく。

（※）島根県と漁業経営体とで協力して沿岸自営漁業者を育成するための協定のこと。協定を締結した経営体は島根県から研修生の受け入れに必要な設備導入の支援を受けられる。



海上でのイワガキの水揚げ作業

経営者からのコメント

イワガキを通して隠岐全体が活気づいていくことを願っています。



中上 光氏

酒米産地を盛り上げる女性農業経営者

カテゴリー

担い手

生産性向上

土地利用型作物

輸出・認証

株式会社穂々笑ファーム（赤磐市）

代表取締役 堀内 由希子

○酒米「雄町」の産地で新規就農し地域農業の振興に寄与

○グローバルGAP取得（2015年）



(株) 穂々笑ファーム



○ 取組内容

- 稻作農家として2009年に就農し、現在は酒米「雄町」を中心として規模拡大を図りながら地域農業を振興している。また、冬季に野菜を栽培することで、農地の有効活用と雇用の創出を図る。
- 地域の指導的立場を担うなど、地域の信頼も厚く、県内で類のない女性の大規模稻作経営者として活躍している。
- 2015年、安全性や環境に配慮した農産物の国際的な生産管理基準「グローバルGAP（団体認証）」を取得した。
- 2018年、農業法人・穂々笑（ほほえみ）ファーム（赤磐市山口）を設立した。
- 2019年、赤坂特産雄町米研究会の副会長に就任し、地域の中核的な存在となった。



グローバルGAPの雄町米



授賞式の様子

○ 取り組みに至った経緯

非農家出身の堀内氏は、短大卒業後、一般企業で働いていたが、周囲の勧めもあり、赤磐市で就農を決意した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

「グローバルGAP」の取得に際し、それまでの施設整備や農業生産工程の見直しが必要となり、研究会のメンバーらと協力して取り組む中、経営者・生産者としての考え方や姿勢を見直すきっかけになり、付加価値の向上につながっている。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- 第63回岡山県農林漁業近代化表彰（R5）
- 第63回農林水産祭「日本農林漁業振興会会長賞」（R6）

○ 今後の展望（将来に向けて）

歴史ある酒米「雄町」の普及に努め、地域の魅力を発信し、後進や後継者の育成に繋げていきたい。また、デジタル技術を活用することで、中山間地域に適するスマート農業のあり方を追及し、持続的に地域農業を支えていきたい。

経営者からのコメント

私がやらねば誰がやる



堀内 由希子氏

住民の生活支援に向けた、デジタル技術の導入

NPO法人吉縁起村協議会（真庭市）

理事長 鈴木 昌徳

○かんしょ「翠王（スイオウ）」を活かした特産品を開発

○無人キャッシュレスの4店舗を運営し地域福祉に貢献

URL:<https://engimura.net/>



○ 取組内容

- 耕作放棄地を中心に、葉や茎が食べられる「翠王」を栽培し、お茶、ようかん、ジェラート等に加工・販売している。
- 高付加価値のインディカ米種「プリンセスサリー」、地元企業と連携した「ショウガ」を栽培している。
- 吉地区の拠点施設となる有人店舗を開設した（令和2年）。
- 買い物の利便性を目的に無人キャッシュレス店舗「スマート
♥縁起村」を、NTT西日本と連携し開店した（令和5年10月）。

○ 取り組みに至った経緯

平成26年に地域の小学校が廃校、翌年には郵便局や路線バスが廃止になるなど、地域の高齢化もあって、地域活動が停滞していた。

このため、地元有志による地域看板づくりから始まり、農業者と非農業者が連携する農村RMO（農村型地域運営組織）を設立し、現在はその発展型として令和7年6月にNPO法人を設立した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

過疎地域での無人キャッシュレス店舗だけでは赤字経営のため、令和7年3月、駅構内や市役所等に3店舗を開店し、安定した収益を確保している。

地域計画作成でGIS（地理情報システム）を活用したデジタルマップを作成し、今後の地域運営に活かす方針である。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

第11回「ディスカバー農山漁村の宝」

特別賞（農村RMO賞）（R6）

○ 今後の展望（将来に向けて）

NPO法人として、無人キャッシュレス店舗を核とした過疎地域等集落ネットワーク圈形成支援事業の「指定地域共同活動団体」認定を得て、市内の他団体とネットワークを形成し、地域課題解決に寄与する中心団体として活動する。



ショウガの栽培

理事長からのコメント

農村RMOを継続したNPO法人として、地域社会に一層貢献できる活動を展開します。



鈴木 昌徳氏

農福連携を応援する地域商社

株式会社八天堂ファーム（三原市）

代表取締役 林 義之

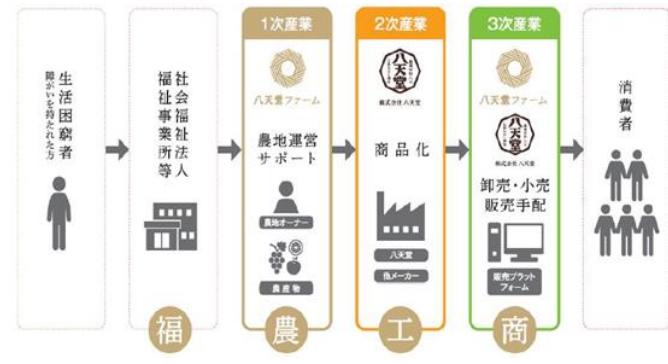
- 農業生産、商品開発、加工・販売、生活困窮者の支援
 - 農福コンソーシアムひろしまに参画し、農福連携を牽引

URL : <https://hattendofarm.co.jp>



○ 取組内容

- ・社会福祉法人宗越福祉会と協働で生活困窮者の自立支援に向けた耕作放棄地を活用した果樹栽培を実践している。
 - ・社会福祉法人宗越福祉会、広島県立黒瀬高校と協定を締結し、若者に教育の場を提供し、農福連携の人材創出を目指す。
 - ・広島県立三原特別支援学校との商品開発や高校生のボランティアを受け入れている。
 - ・「ノウフクの理念の啓発・共生社会の実現」を目指し、岡山県や岐阜県の事業者の農福連携產品を活用してジャムやくりーむパンを開発するなど販路拡大に取り組む。
 - ・ノウフクJASを取得した。
 - ・2024年、社会福祉法人宗越福祉会を主幹事とした「農福コンソーシアムひろしま」に参画した。
広島県及び3市（三原市、竹原市、東広島市）も連携している。



(体制図)

代表者からのコメント

農福連携をビジネスでサステナブルにするモデルを構築します。



林義之氏

○ 取り組みに至った経緯

令和3年、社会福祉法人宗越福祉会と共に耕作放棄されたぶどう園を受け継ぎ、生活困窮者の自立支援を目指した農福連携型就労訓練事業を開始した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

農福連携だけでは、事業性の確保に課題があるため、商工農福連携に取り組み、利益循環型構造の構築を目指した。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・第10回「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」(R5)
 - ・ノウフク・アワード2024 準グランプリ 「未来を耕す」部門

○ 今後の展望（将来に向けて）

農福連携並びにノウフクJASの普及とともに、加工品の開発や販路拡大、付加価値を創出するプラットフォームを構築していく。

耕畜連携と6次産業化による地域と連携した酪農

有限会社トムミルクファーム（東広島市）

代表取締役 沖 正文

○耕畜連携の取組により中山間地域の農地保全に貢献

○第11回全国自給飼料コンクール農林水産大臣賞を受賞

URL:<https://tommilk.com/>



○ 取組内容

耕畜連携によるWCS用イネ生産を通じ、地域の農地保全に積極的に貢献する酪農経営体。周辺地域の耕種農家と栽培契約を結んでいる。中山間地域にありながら粗飼料自給率はTDN換算で80%以上、飼料自給率は57%を達成している。

搾乳ロボットを導入したり、ひろしま型スマート農業推進事業の実証プロジェクトに参加するなどスマート農業に取り組んでいる。

6次産業化による商品開発と直売、体験学習や宿泊型の観光事業など地域全体の活性化のために地域の魅力を発信している。

○ 取り組みに至った経緯

堆肥のリサイクルにより耕種農家とつながりを持ち、地域に根差し必要とされる酪農経営を考え、堆肥を利用して飼料を生産する耕畜連携の取組で地域と連携して環境に配慮した持続可能な酪農を目指した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

稻WCS導入当初の品種では消化器系の疾病の発生を経験したが、新品種「たちすずか」の給与実証の結果をもとに生産拡大を地域に要望すると同時に、収穫調整機械を自社にて導入し収穫調整を担う。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・第11回全国自給飼料生産コンクール農林水産大臣賞 (R6)

○ 今後の展望（将来に向けて）

地域内自給飼料の生産拡大を耕畜連携の下で進めると同時に、水田の畑地化と集約による大区画化と排水対策による飼料作物・トウモロコシの生産を耕畜連携のさらなるステップに位置付けている。

また、中山間の立地ならではの限界農地のある地域で牛の放牧による飼育とアルベルゴ・ディフーヴによる新たな農村観光の可能性を検討している。



牧草地を利用した農商工連携によるマルシェの開催

経営者からのコメント

物事の物作りだけでなく事の発信が必要な時代、食と命の学びの場をつくりたい。



沖 正文氏

地域一体で取り組む鳥獣被害対策

たすき あさおい
下関市豊北町大字田耕「朝生地区」（下関市）

農事組合法人朝生 代表理事 田中 信義

朝生自治会 自治会長 和田 鎮夫

○農事組合法人と自治会、市・県が連携し、地域ぐるみの鳥獣被害対策で被害金額が減少

総合計画の概要

1 生息地管理
(緩衝帯の整備)

2 防護

3 捕獲

朝生地区は、市・県と連携し、地域ぐるみで防護・捕獲・生息地管理の3つの対策を総合的に取り組む



防護柵の点検補修



地域住民への成果報告会

○ 取組内容

年々、生息数が増加する鳥獣（イノシシやシカ）に対応するため、「農事組合法人朝生」と「朝生自治会」で役割分担し、市、県と連携して令和3年2月に「朝生地区鳥獣被害対策総合計画」を策定した。同計画に基づき、「山口型放牧」による雑草や潜み場の除去を行うとともに、山口大学と連携した採餌環境の把握に基づく罠の設置や侵入防止柵の管理に取り組みながら、猟友会と連携した捕獲活動等を行った。

○ 取り組みに至った経緯

令和2年に県と市の担当者から「集落ぐるみで鳥獣被害対策をしてみませんか」と声をかけられたのがきっかけ。この頃、イノシシやシカの被害が深刻化しており、地域住民全員で検討を重ね、対策に取り組むことにした。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

地域住民の理解がなければ継続した取組が不可能なことから、「朝生猪鹿通信」の発行（年4回）や毎年度末に成果報告会を開催し、地域の鳥獣被害対策に対する意識を高めることにより、総合的な対策を継続的に行う体制ができた。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

令和元年度に約2,500千円だった被害金額が、令和6年10月末には約1,000千円まで減少した。

（受賞歴）

鳥獣対策優良活動表彰

農林水産大臣賞 被害防止部門（団体）（R6）

○ 今後の展望（将来に向けて）

総合計画は令和5年度で終了したが、地域住民が協力して取組を行えば十分鳥獣被害を抑えられることから、今後も農事組合法人と自治会が連携して「生息地管理」、「防護」、「捕獲」の被害対策活動を行っていく。また、「朝生地区」の農地をみんなで守り、次世代に引き継がれるような農業経営を目指して、地域活動を継続していく。



ワナによる有害鳥獣の捕獲



山口型放牧の牛の管理

代表者からのコメント

イノシシやシカの被害に加え、近年ではサルの被害も増加しており対策を強化したい。



田中 信義氏

干拓の歴史が築いた緑の大地を次世代に継ぐ

農事組合法人新西（山口市）

代表理事 河村 芳男

○女性が積極的に働く組織づくりと農を通じた豊かな地域づくり

○50.8ha（水稻、大麦、小麦、大豆、タマネギ）※作業受託含む



○ 取組内容

山口市南部に位置する名田島地区の干拓地50.8haで土地利用型農業を展開し、高収益化と耕地利用率200%を達成するとともに、有機質肥料への転換や集落営農法人連合体を通じたコスト削減、学校給食パンの原料（小麦）を供給するなど特色ある産地を形成した。

集落ぐるみの法人経営を目指し、戸（世帯）から個（個人）へ組合員と組合員家族を含めた複数組合員の構成とし、組合員家族を含めた農作業体系の確立と豊かな地域づくりに取り組むとともに就業規則を定め、組織の中核として組合員家族2名を常時雇用している。

女性理事を登用し、法人経営に女性の意見を反映すると共に、女性が主体的に田植えや野菜の栽培管理を担うなど、女性が積極的に働く組織づくりに取り組む。

○ 取り組みに至った経緯

組合員の高齢化と離農が進む中、将来における地域農業の存続に強い危機を感じ、地域の担い手確保と女性が積極的に働く組織づくりに迫られた。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

担い手確保に向けた組合員家族の常時雇用は順調に進んだものの男性を中心とした慣習もあり、女性の意見反映は難航した。

女性理事の複数体制化、女性オペレータ育成、農業機械の更新による省力化と役割分担の見直しなどを積極的に進め、徐々に組織内の意識が変化した。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・全国優良経営体表彰 経営局長賞 (R6)
- ・山口県集落営農法人優良経営体表彰 山口県知事賞 (R5)

○ 今後の展望（将来に向けて）

耕地利用率200%の維持、全組合員の複数組合員化、若者や女性の理事登用促進と役割の明確化、集落営農法人連合体との連携強化やスマート農機による省力化など、協同の力で集落営農と暮らしを守り、安心できる農業経営を次世代へ継承する。



女性主体に栽培するタマネギの収穫



豊かな地域づくりとして行事を開催

代表者からのコメント

米・麦・大豆を中心に経営の安定化を図るとともに地域雇用を創出し、安心できる農業経営を次世代へ継承する。



河村 芳男氏

「人の和」で農業の課題を解決する

株式会社 菜々屋（徳島市）

代表取締役 松原 克浩

○障害者就労施設の運営による農福連携の取組

URL: <https://nanaya-agri.com/>



○ 取組内容

- 農業法人4社が共同して福祉事業所を立ち上げ、徳島県の各JAと連携して、県内全域の農家で施設外就労を行い、100人を超える障害者が農業分野で活躍している。

○ 取り組みに至った経緯

- 販路開拓、資材調達など、農業の様々な課題解決のため、4つの農業法人が共同出資し（株）菜々屋を設立した。
- 農繁期における人手不足に直面し、福祉事業所から障害者雇用を受け入れた中で、農福連携を継続するためには、福祉と農業双方の理解が重要と気づいた。
- 双方の立場を理解できる立場になると、自社で福祉事業所「チームシリーズ」の運営に取り組むこととした。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

- 障害者雇用における労働生産性向上のために、障害者就労施設の利用者に対して、体力や特性に合わせて農作業を細分化するとともに、評価書（アセスメントシート）による評価を実施した。
- 農福連携を広げるためには、農家、JA等と情報共有が必要となる。JA全農とくしまと連携して農福連携の初期計画を作成するとともに、JA全農とくしまから各JAとの契約の仲介等の支援を受けている。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ノウフク・アワード2021 準グランプリ
- ノウフク・アワード2024 グランプリ

○ 今後の展望（将来に向けて）

- 農福連携の取組を定着、成功させるために、農業と福祉、両者が対立しないよう、お互いに歩み寄って農福連携を「共育」したい。
- この思いにより、全国の产地が活性化し、一緒に頑張る利用者が、農業の最前線で輝ける未来を作っていくたい。

カテゴリー

加工・流通

農福連携



経営者からのコメント

尽きない課題に立ち向かい、解決し続ける仲間の集まりでありたい。



松原 克浩氏

神山育ちの食育で、未来へつなぐ食農プログラム

NPO法人まちの食農教育（名西郡神山町）

代表理事 樋口 明日香

○食と農の循環を体験するプログラムを提供することで、地域の食文化を未来へつなぎ、食を育む意識を高める取組

URL:<https://shokuno-edu.org/>



(食農プログラムにて)
地域の農家からの学びの様子



(食農プログラムにて)
畝を作った子どもたちの様子

○ 取組内容

- ・神山町内の小中学校、高校、高専と連携し、児童・生徒が育てた野菜や米を地域のレストランや給食センターに納品し、実際に食べる体験を通じて「食の循環」を学ぶ食農プログラムを開催している。

○ 取り組みに至った経緯

- ・食と農を軸にしたまちづくりが進められていた神山町で平成28年から活動していた「Food Hub Project」に食育スタッフとして参加した。
- ・令和4年に「Food Hub Project」の食農教育部門を母体とし、地域の食文化とそれを支える農業を次世代へ継承し、持続可能な社会の担い手を育むことを目的に、NPO法人まちの食農教育を設立し、活動に取り組み始めた。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

- ・現在は、町役場からの事業委託として事業を運営しているが、継続的な運営のため自主事業を検討していく必要がある。
- ・NPO法人まちの食農教育が考える食農教育について取りまとめた冊子「食農教育のはじめかた」を作成・発行。これをテキストとし、食農教育推進を目的としたオンラインプログラムを企画した。
- ・また、地域住民の理解と協力を得るため広報を通じて活動の意義を発信している。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- ・第9回食育活動表彰 教育関係者・事業者部門
農林漁業者等の部 消費・安全局長賞 (R6)

○ 今後の展望（将来に向けて）

- ・神山町の食農教育モデルを全国へ展開し、地域連携と多世代交流による豊かな食コミュニティを育む活動の幅を広げる。



NPO法人まちの食農教育が作成した冊子「食農教育のはじめかた」

代表者からのコメント

食は種まきから体に取り込むまで壮大な探究テーマ。
食農教育を通して、子どもたちは自分なりの見方を培い、自然や社会とのつながりを見出し、学び続ける力を育みます。



樋口 明日香氏

国産小麦「さぬきの夢」原料の讃岐うどんを世界へ

石丸製麺株式会社（高松市）

代表取締役 石丸 芳樹

○1904年創業。讃岐うどん・そうめん等の乾麺や半生麺を製造・販売。

2002年より海外展開を開始し、現在は20ヶ国に販路拡大。主な輸出先国は台湾、中国。

URL:<https://isimaru.co.jp>



石丸製麺本社と「さぬきの夢」（圃場は第三者保有）



商品

○ 取組内容

- ・1984年には、我が国初の手打ち式乾麺の商品化を成功した。
- ・2002年より日系スーパーを中心に台湾・香港・中国など海外販売を開始した。
- ・2024年3月に海外営業部を新設した。
- ・シンガポール、米国、EUなどへ販路を拡大し、現在輸出先は20か国を上回っている。現地スーパーで讃岐うどんを紹介しながら実演販売活動を実施し、「石丸」ブランドの認知拡大を図っている。

○ 取り組みに至った経緯

- ・国内の高齢化や人口減少が進むなか、海外に目を転じ台湾での日本食品への需要の高まりに着目した。
- ・国内既存取引先であるコストコの販路を利用した台湾への輸出を皮切りに、海外へ販路を拡大した。



香港でのプロモーション活動

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

- ・海外での讃岐うどんや当社の認知度の低さを痛感した。
- ・石丸製麺の認知度向上とブランド構築のため、現地の「質販店」にて試食販売や実演販売を定期的に実施した。JETRO コンソーシアム事業を活用し、専門家とミーティングを実施し、販路を拡大した。
- ・現地ローカルスーパーへの販路開拓のため、JETRO 主催の現地バイヤーや現地輸出商社との商談会に積極的に参加している。
- ・海外ビジネス経験者や語学人材採用による現地取引先への営業強化により、直接輸出に取り組む。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

令和6年度輸出に取り組む優良事業者表彰 輸出・国際局長賞

○ 今後の展望（将来に向けて）

- ・海外の大口顧客との取引拡大に対応し、現在2交代制で最大限生産中。今後の新規市場開拓を視野に入れ、国産小麦を活用した麺の供給力拡大のため、2026年には新工場を竣工予定である。
- ・同社製品の品質の高さと日本食への人気から、売上増加傾向は続く見込みである。
- ・海外で幅広く量販店を展開するPPIH(パン・パシフィック・インターナショナル・ホールディングス)と協業で、2023年からラーメンの輸出も開始、好調で今後の伸びも期待される。

経営者からのコメント

信念は出会いを大切にすることです。創業以来育ててくれた郷土に対する愛と、世界に冠たる讃岐うどんへの誇りを胸に、出会いを求めて努力します。



石丸 芳樹氏

地域で循環する農業を目指して

香川県立農業大学校（仲多度郡琴平町）

メンバー 野菜園芸コース（生徒代表 宮川 諒信）

○地域で廃棄される物を回収して堆肥化、野菜の栽培に利用

○栽培した野菜は、地域のカフェや高校の学生食堂等で料理に使用

URL:<https://www.pref.kagawa.lg.jp/nodai/>



中国四国農政局賞授与式



取り組み内容を高校に掲示



落ち葉回収

○ 取組内容

①有機物の回収

地域の高校生が清掃活動で回収した落ち葉を活用している。また、地元スーパー等から出た食品残渣も回収している。

②堆肥化・安全確認

回収した有機物等を堆肥化して「こんぴら堆肥」と命名し、堆肥発芽試験を実施して堆肥の安全性を確認した。

③「こんぴら堆肥」で野菜づくり

堆肥を使用して結球レタスと香川本鷹（唐辛子）を栽培し、慣行栽培と遜色ない収量が確保できること、問題なく使用できる堆肥であることを確認した。

④生産物の利用

栽培した野菜は、地域のカフェや高校の学生食堂、地元の祭りで提供される料理に使用している。

⑤未来に繋ぐ食農教育

地元の小学生や高校生に今回の活動及び農業・環境について周知する機会を創出した。

○ 取り組みに至った経緯

高校時代、地域の清掃に取組む活動があり、有機質のゴミが多く焼却処分されていた。「何かで有効利用できないか」と考え、「地域で循環する農業」を目標に取組を開始した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

産廃法※の回収・配達に抵触する恐れがあることから県と町に確認して、学校学習としての取組が可能と回答を得た。

※廃棄物の処理及び清掃に関する法律

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

第1回みどり戦略学生チャレンジ

中国四国地方ブロック大会 中国四国農政局長賞 (R6)

○ 今後の展望(将来に向けて)

「廃棄物の有効利用」と「二酸化炭素の排出量削減」に繋がる取組として継続の価値があると思料している。

「こんぴら堆肥」を用いて栽培した「香川本鷹」を地域の特産品とすることを目指して現在、地元企業と検討している。



上：祭りの料理でサラダに使用
下：こんぴら堆肥を使った香川本鷹

代表者からのコメント

環境に配慮した循環型農業を目指します。



宮川 諒信氏

価値を再定義！規格外柑橘の加工・販売の取組

きりぬき（松山市）

代表 鈴木 隼人

○農家から規格外柑橘を市場より高く買取り、柑橘農家全体の収益底上げを目指す活動。

URL: <https://www.instagram.com/kirinuki.mikanyama>



○ 取組内容

昨シーズン（2024年10月～2025年6月）は、松山市内の柑橘農家120軒から約190トンの規格外柑橘を買取り、インターネット販売やジュースへの加工・販売を行った。

柑橘農家や自治体、大学や福祉施設と連携し、みかんの選別体験会や講演会、販売イベントなどを開催している。

作業が困難な高齢柑橘農家の収穫作業を支援している。

地域の既存産業とコラボし、柑橘のリキュール開発や伊予柑のクラフトビール開発に携わっている。



○ 取り組みに至った経緯

今から10年前、みかん農家でアルバイトをしていた際、規格外品として非常に安く売られたり、山に廃棄されたりするみかんを見て違和感を覚えた。

最初は1人で規格外みかんの販売を行い、みかん農家に売上を還元していたが、もっとたくさんの柑橘農家の役に立ちたいと思い、後輩や柑橘農家の支援のもと、団体を立ち上げた。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

長年の栽培経験から、『規格外品=価値のない商品』であると思い込んでいる生産者の方が多く、私たちの活動内容を理解していただくのに時間がかかった。何度も足を運び説得し、半信半疑で預けていただいた柑橘代金の支払いに伺った際、予想以上の金額に喜んでいただくことができた。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

第11回「ディスカバー農山漁村の宝」（R6）

○ 今後の展望（将来に向けて）

今まで非常に少なかった農作物の新規販路の一つとして選択していただけるよう、これからも現場第一で活動を続けていきたい。

代表からのコメント

今後も生産者目線での販売を心がけていきます。



鈴木 隼人氏

地域を支え、農地を次世代につなげ「三方よし！」

有限会社こんぱら（今治市）

代表取締役 菅 恵志

○地域の担い手としての法人化と次世代への農地・農業の継承

○広く地域住民に受け入れられた都市型集落コミュニティの形成

URL: <https://konpara-co.com/>



○ 取組内容

高性能な農業機械を積極導入し共同利用することで、作業の効率化や労力軽減を図っており、地域内外の高齢農家や兼業農家から作業を受託している。また、水稻のほか、きゅうり、たまねぎ、さといもなどの新規作物を導入し、収益性向上と年間を通した雇用を創出している。

小規模農地と宅地が混在した立地条件のため、地域住民に配慮した営農に取り組むほか、非農家でも参加できるいも炊きやもちつき大会など各種イベントの開催、園児・生徒への農業体験、職場体験学習の受入れ等を行っている。

○ 取り組みに至った経緯

今治市大西町紺原地区は、造船を中心とした工業が主産業である。当地区において、農業従事者の高齢化、兼業化、若者の他産業従事等が進む中、耕作放棄地を出したくないという思いで、平成16年、有限会社こんぱらを設立した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

農地と宅地が隣接しているため、法人化直後は農業機械の騒音を始めとした苦情が絶えなかったが、騒音対策として、農業機械の使用時間の制限や農薬散布日の連絡、異臭対策として、たい肥散布日の翌日にはすき込むなどの対策を講じた。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

令和6年度農林水産祭むらづくり部門 農林水産大臣賞

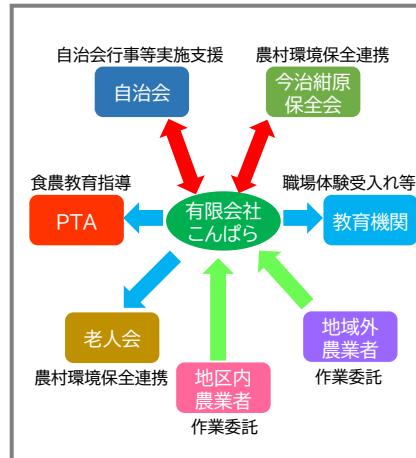
○ 今後の展望（将来に向けて）

自社の基礎がしっかりとしつこし、農地や地域を守っていくことができる。

自社の構成員の高齢化が進む中、常に作業効率性と収益性の向上が必須であり、令和7年度より新たな果樹（ぶどう）分野へ挑戦する。気候変動に対応する根域制限栽培※にて育てる果樹が、将来の農業を支える主力商品に育つものと思っている。

※土量を制限し根の分布域を制限することで、樹体の大きさの調整や、着果促進、果実品質の向上を目的とする栽培技術。

地域内のイメージ図



代表からのコメント

みんなの幸せを実現する三方よし（こんぱら構成員・消費者・守り続けた農地）を理念に、楽しく笑って次につながる農業を行っていきます。



菅 恵志氏

森林保護から始まった地域貢献活動

高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部（高知市）

顧問 佐々木 翼・松田 修幸

○ジビエ部の存在を最大限にいかした地域貢献活動

URL:<https://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/88/kochisho-h/>



ジビエ部員



森林保護活動



ペットフード商品

○取組内容

森林被害をもたらす野生鳥獣をジビエとして利活用し、加工品などの販売利益を森林保護団体に寄付したり、部員自らが植樹したりするなど森林保護活動に取り組んでいる。

また、地域貢献とジビエの普及を目指して、これまでにペットフード商品の開発、地元商店街でのこども食堂の開催、部員がジビエ料理の調理・販売を行う飲食店の開催を実施した。このほか高知市中央卸売市場や街路市での販売も始め、地域の新たな賑わいを創出するなど、森林保護活動を起点に派生した一連の事業を通じて魅力ある持続可能な社会の創造に向けて活動している。

○取組に至った経緯

野生鳥獣による森林被害が課題であることに目を向け、豊かな森林資源を未来に残したいと平成30年に活動を開始した。

○取り組む際に生じた課題と対応方法

食品の提供に当たっては、ジビエへの抵抗感を減らすために、シカ肉のスジを除去したり、ジビエを牛肉や豚肉と混ぜて加工したりするなど工夫をしている。

○取組の成果(受賞・表彰等)

- ・第9回「ディスカバー農山漁村の宝」特別賞（ジビエ賞）（R4）
- ・第1回みどり戦略学生チャレンジ
中国四国地方ブロック大会 特別賞（R6）
- ・第39回高知県地場産業大賞 高知県地場産業次世代賞（R6）
- ・第17回全国商い甲子園大会 優勝「岩崎弥太郎賞」（R6）

○今後の展望（将来に向けて）

高知県では南海トラフ地震発生による甚大な被害が想定されていることから、ジビエ部では、災害時に活用できるペット用非常食の商品開発に向けてプロジェクトを立ち上げ、新たな挑戦を行っている。

また、街路市では外国人観光客と接する機会が増えてきたことから、英語も活用できるジビエ部を目指している。



顧問からのコメント

令和7年度は森林保護活動に寄付をするだけではなく高知県の伝統と文化を継承できるような活動に取り組んでいきたいです。



松田 修幸氏

スマート畜産で実現する高品質鶏と循環型農業

株式会社 ヤマニファーム（幡多郡大月町）

代表取締役社長 井上 孝秀

○高知県幡多郡大月町でスマート畜産を実践し、循環型農業と高品質鶏生産を両立

URL:<https://yamani-farm.co.jp/>



養鶏場全体



コンピューター管理システムを用いた鶏舎



コンピューター管理システムのコントローラー

○ 取組内容

- 最先端のコンピューター管理システムにより、鶏舎内の給餌量・温度・湿度・光を自動管理し、鶏に快適な環境を整備している。
- 鶏ふんを堆肥として再利用し、高知県産飼料米を活用するなど、地域資源を取り入れた循環型農業を推進している。
- 2019年、同社が発起人となり町内農家と「町畜産クラスター協議会」を設立した。
- 自社農場でのレモン栽培（生産者限定ブランド「こじちゃんとレモン」）、障害者雇用の促進、レモンを活用した新商品の開発など、地域と連携した取組を実施している。
- 将来的にはレモンの果皮を飼料に加え、農場全体で資源を循環させる計画としている。
- 自社で飼育・管理した鶏は、生産者限定ブランド「よさこい尾鶏」として認定され、炭酸ガス麻酔や空気冷却の工程を経て、安全で高品質な鶏肉として提供されている。

○ 取組に至った経緯

- 大規模化による人手不足に対応するため、換気・給水・給餌を自動制御し、遠隔監視も可能にした。
- 肥料高騰に対応し、鶏ふんを堆肥として農家に配布した。
- 葉たばこの廃業を受け、農家10戸から約7haの農地を取得し、2022年からレモン栽培を開始した。

○ 取り組む際に生じた課題と対応方法

- 多様な人材が活躍できる環境づくりとして、女性専用設備を整備し、女性視点の商品企画やブランド戦略を推進した。
- 飼料調達や安全性の課題に対応するため、災害時にも活用できる飼料ストック基地を整備した。

○ 取組の成果(受賞・表彰等)

- 令和7年度農林水産祭畜産部門 天皇杯
- 令和6年度全国優良畜産経営管理技術発表会 農林水産大臣賞

○ 今後の展望（将来に向けて）

- 誰にでも管理できる飼育体制を更に進化させ、全国でもトップクラスの肉用鶏農家を目指している。
- 自社ブランドの「よさこい尾鶏」と「こじちゃんとレモン」の認知拡大を図り、加工品の企画販売を進めていく。

カテゴリー

担い手

畜産

加工・流通



自社農場



こじちゃんと
レモン



よさこい尾鶏



よさこい尾鶏
加工品

経営者からのコメント

これからも、持続可能な農業を目指し、農業を通じて地域に貢献したい。



井上 孝秀氏

【お問合せ先】

中国四国農政局企画調整室

〒700-8532 岡山市北区下石井1-4-1

TEL 086-224-4511 (代表)

本資料は中国四国農政局ホームページに掲載しております。

<https://www.maff.go.jp/chushi/assess/wpaper/index.html#meguji>